

第 6 問 東京の高校に通うスミさんは、教科書で見た山梨県の扇状地に興味をもち、甲府盆地とその周辺地域の調査を行った。次の図 1 を見て、この地域調査に関する後の問い(問 1 ～ 6)に答えよ。(配点 18)

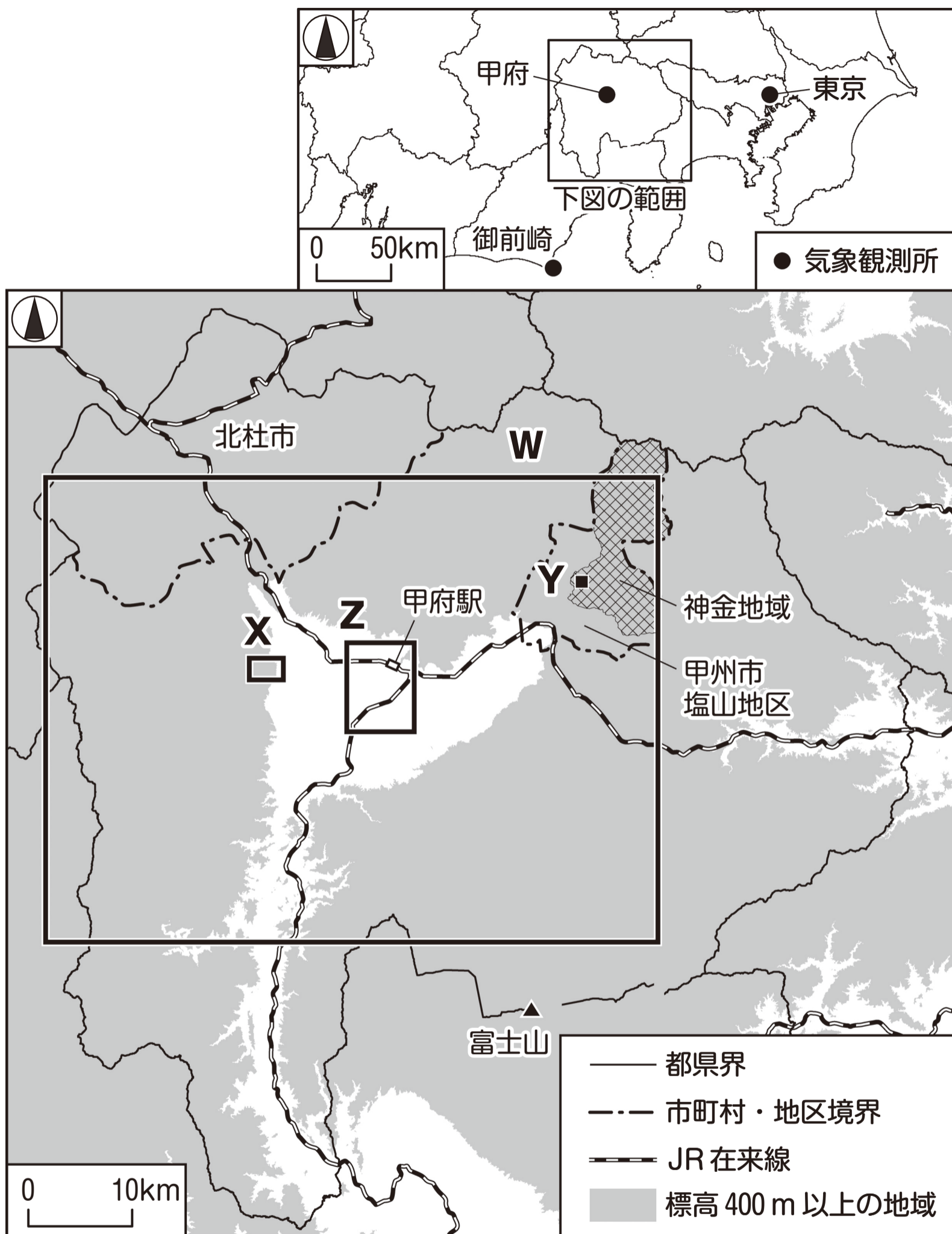


図 1

問 1 事前調査として、スミさんはいくつかの指標から甲府の気候を他地域と比較した。次の表 1 は、59 ページの図 1 中に示した甲府を含む 3 地点の気象観測所における、夏季の気温の日較差* と、冬季の総降水量** を示したものであり、**ア～ウ**は、^{おまえざき}御前崎、甲府、東京のいずれかである。気象観測所と**ア～ウ**との正しい組合せを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 30

* 6 月， 7 月， 8 月の平均値。

** 1 月， 2 月， 12 月の合計値。

表 1

	夏季の気温の日較差(°C)	冬季の総降水量(mm)
ア	9.4	118.4
イ	6.5	159.4
ウ	5.1	248.7

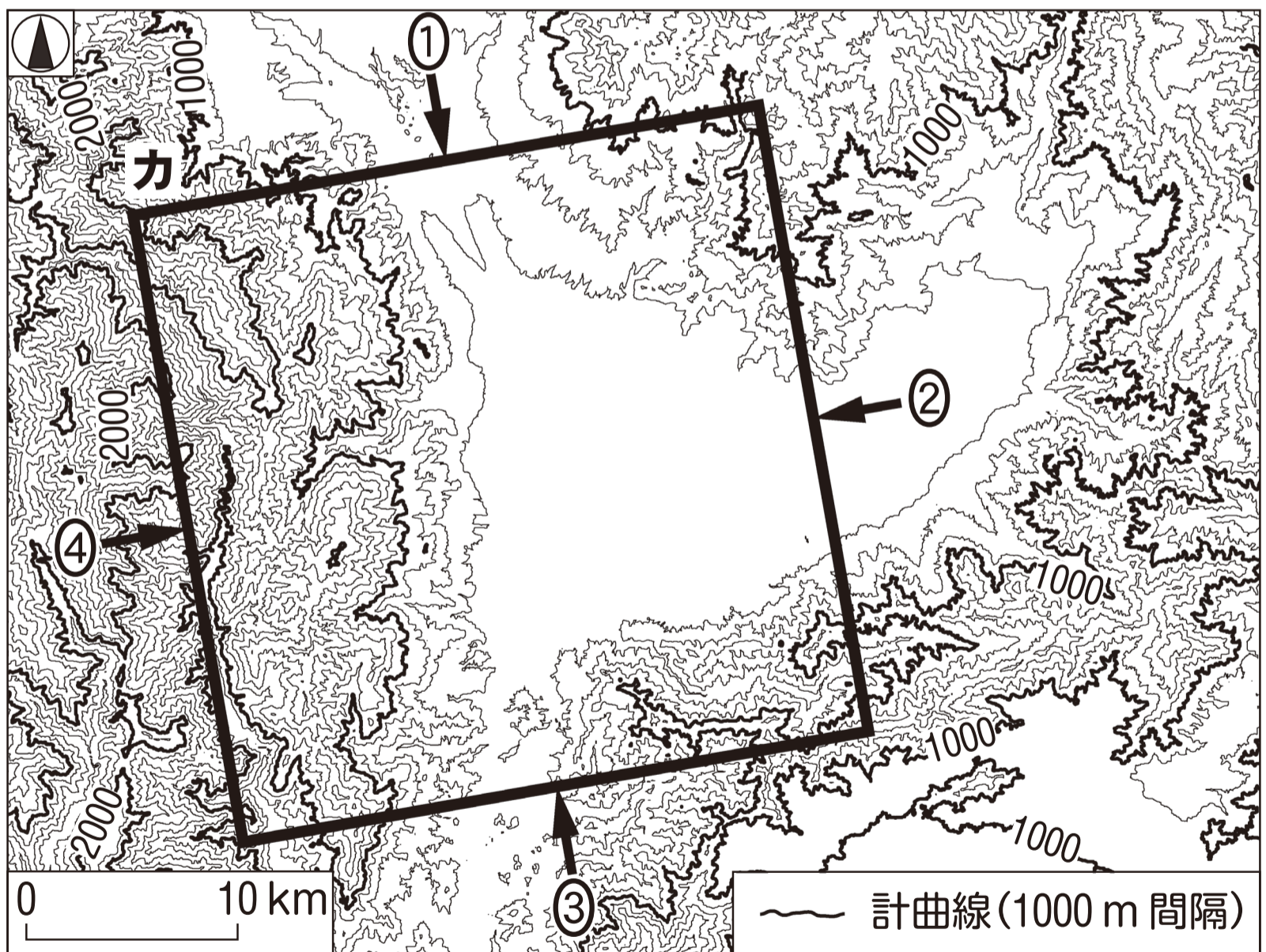
気象庁の資料により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
御前崎	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
甲府	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
東京	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

(下書き用紙)

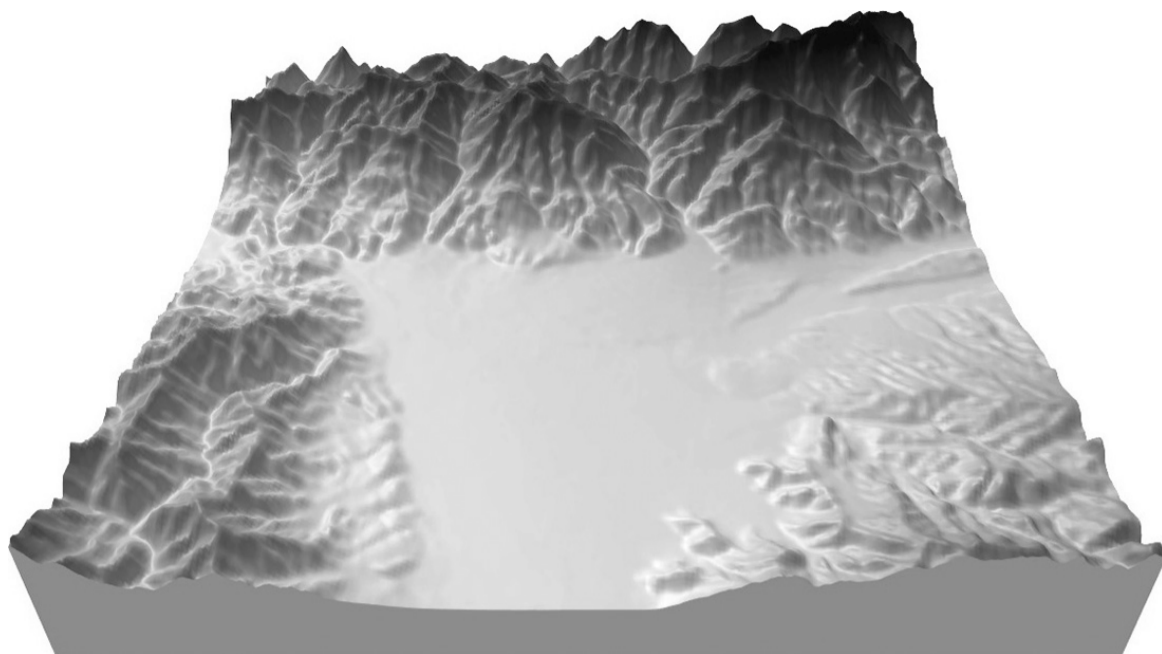
地理Bの試験問題は次に続く。

問 2 スミさんは、甲府盆地の地形的特徴を知るために、数値標高データを使って鳥瞰図^{ちようかん}を作成した。次の図 2 は、図 1 (59 ページ) 中の **W** の範囲における甲府盆地とその周辺の地形を 200 m 間隔の等高線で表現したものであり、後の図 3 は、図 2 中の **カ** の範囲について、図 2 中に示す①～④のいずれかの方向から見下ろした鳥瞰図である。図 3 のように見える方向に該当するものを、図 2 中の①～④のうちから一つ選べ。 31



基盤地図情報により作成。

図 2



標高が高いほど濃く，高さは強調して表現してある。

図 3

問 3 スミさんは、古くから氾濫の多い河川として知られる
^{み だ い が わ}
 御勅使川の扇状地を歩き、地域の土地利用について住民か
 ら話を聞いた。次の図 4 は、図 1 (59 ページ) 中の X の範
 囲における 2008 年発行の 2 万 5 千分の 1 地形図(一部改
 変)に、1916 年発行の 2 万 5 千分の 1 地形図に描かれた石
 積みの堤防の分布を重ねたものである。また、後の①～④
 の文は、図 4 中の A～D のいずれかの地点における土地利
 用の特徴について、スミさんが作成したメモである。D
 の特徴を説明した文として最も適当なものを、後の①～④
 のうちから一つ選べ。

32

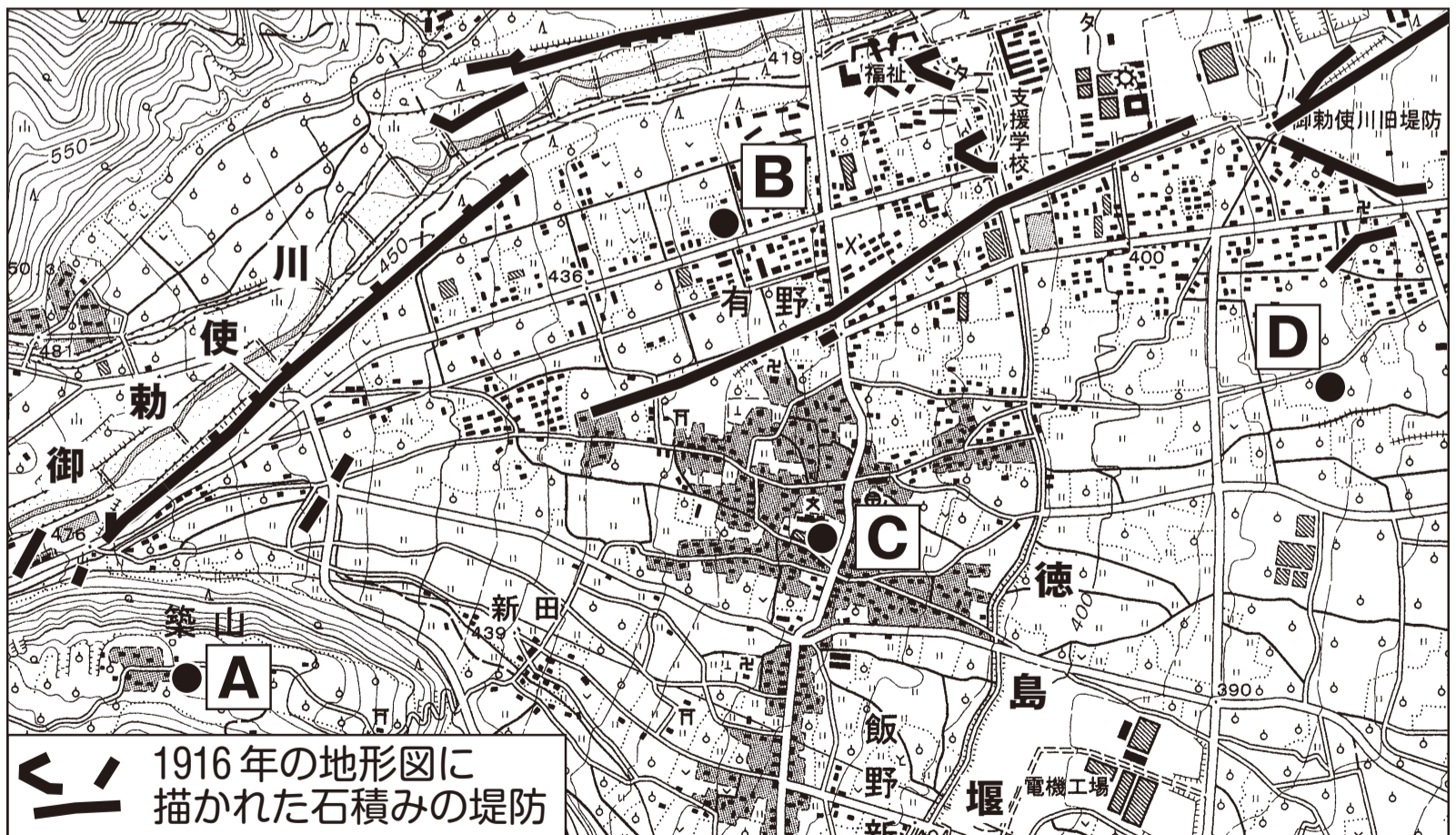


図 4

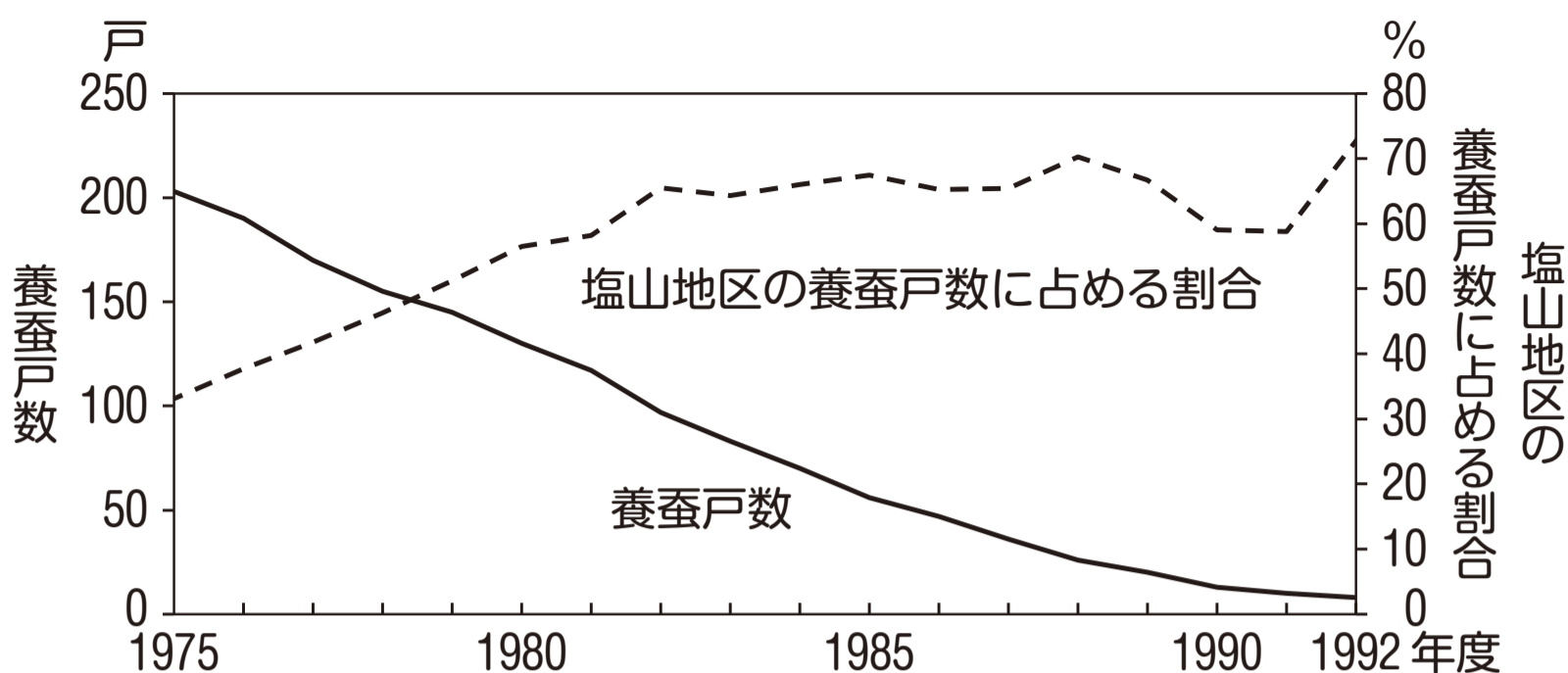
- ① 1916年ごろには御勅使川の河道に位置していたが、直線的な道路が整備されるなど開発が進み、住宅や農地がみられるようになった。
- ② かつては水を得にくい土地だったが、用水路である徳島^{とくしま}堰^{せき}から地形の高低差を利用して水を引くことにより、果樹栽培が広くみられるようになった。
- ③ 扇状地よりも高い位置にあり、住宅や農地は、かつてたびたび発生した御勅使川の氾濫の被害を免れてきた。
- ④ 古くからの集落であり、等高線に沿うように延びる主要道路に面して、公共施設がみられる。

問 4 甲府盆地で養蚕業が盛んであったことを知ったスミさんは、かつて養蚕をしていた図 1 (59 ページ)中の甲州市塩山地区の山間部にある神金地域を訪れ、住民に話を聞いた。次の写真 1 は、神金地域内に位置する図 1 中の地点 Y においてスミさんが家屋を撮影したものであり、後の図 5 は、神金地域における養蚕戸数と、それが塩山地区の養蚕戸数に占める割合の推移を示したものである。67・68 ページのスミさんと住民との会話文中の空欄サとシに当てはまる語句の正しい組合せを、68 ページの①～④のうちから一つ選べ。

33



写真 1



『山梨県の蚕糸業』により作成。

図 5

スミ 「写真 1 のような、屋根の中央部を突き上げるように高くした家屋がこの周辺には多いですね。なぜこのような形をしているのですか」

住民 「養蚕が始まった当初は、このような屋根ではなかったのですが、自宅内で養蚕を行うスペースを広げるために、屋根と屋根裏を改修しました。その際に、屋根の中央部は(サ)と採光を重視した構造となりました。このような伝統的家屋には、現在は文化財として保存されているものもあります」

スミ 「養蚕業は主要な産業だったのですよね。いつごろ養蚕業が盛んだったのですか」

住民 「神金地域では，明治から昭和の中ごろにかけて養蚕業が盛んに行われていました。しかし，図 5 からわかるように，1990 年ごろまでに，養蚕戸数が大きく減少しました。神金地域と塩山地区内の他地域を比べると，神金地域は養蚕業が(シ)地域でした」

スミ 「現在は，養蚕に必要な桑園そうえんはほとんど残っていないのですか」

住民 「そうですね。ほとんどが果樹園にかわりました」

スミ 「時代とともに地域の主要な産業が変化してきたのですね。ありがとうございました」

	①	②	③	④
サ	通気性	通気性	防音性	防音性
シ	遅くまで行われていた	早くに縮小した	遅くまで行われていた	早くに縮小した

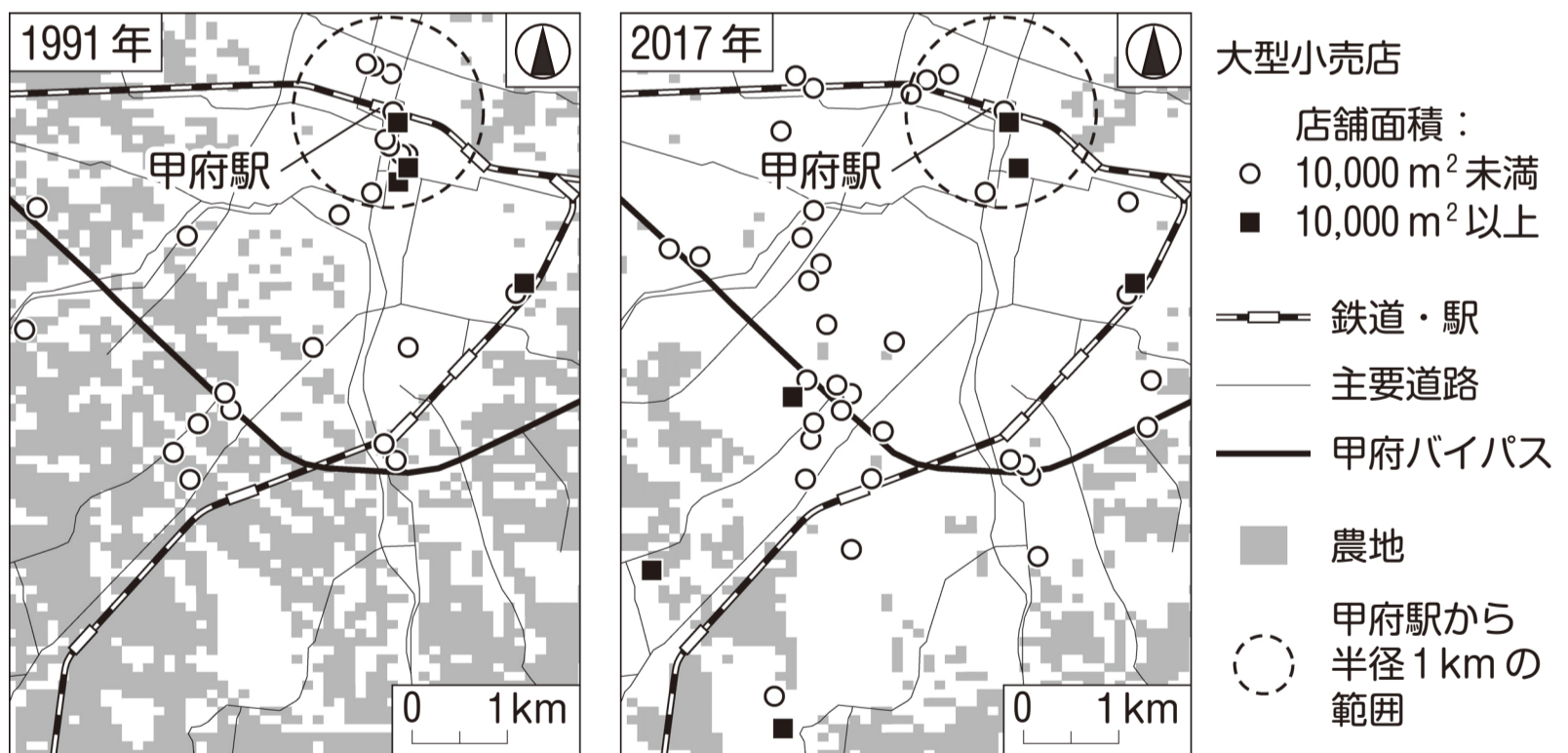
(下書き用紙)

地理Bの試験問題は次に続く。

問 5 スミさんは、甲府駅南側の中心市街地に向かう途中に多くの大型小売店があることに気づき、甲府市とその周辺地域の商業の変化について調べた。次の図 6 は、図 1 (59 ページ) 中の Z の範囲における 1991 年と 2017 年の大型小売店* の分布を店舗面積別に示したものである。図 6 の範囲から読み取れることからを説明した文として下線部が最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

34

* 店舗面積が 1,000 m² 以上の店舗。



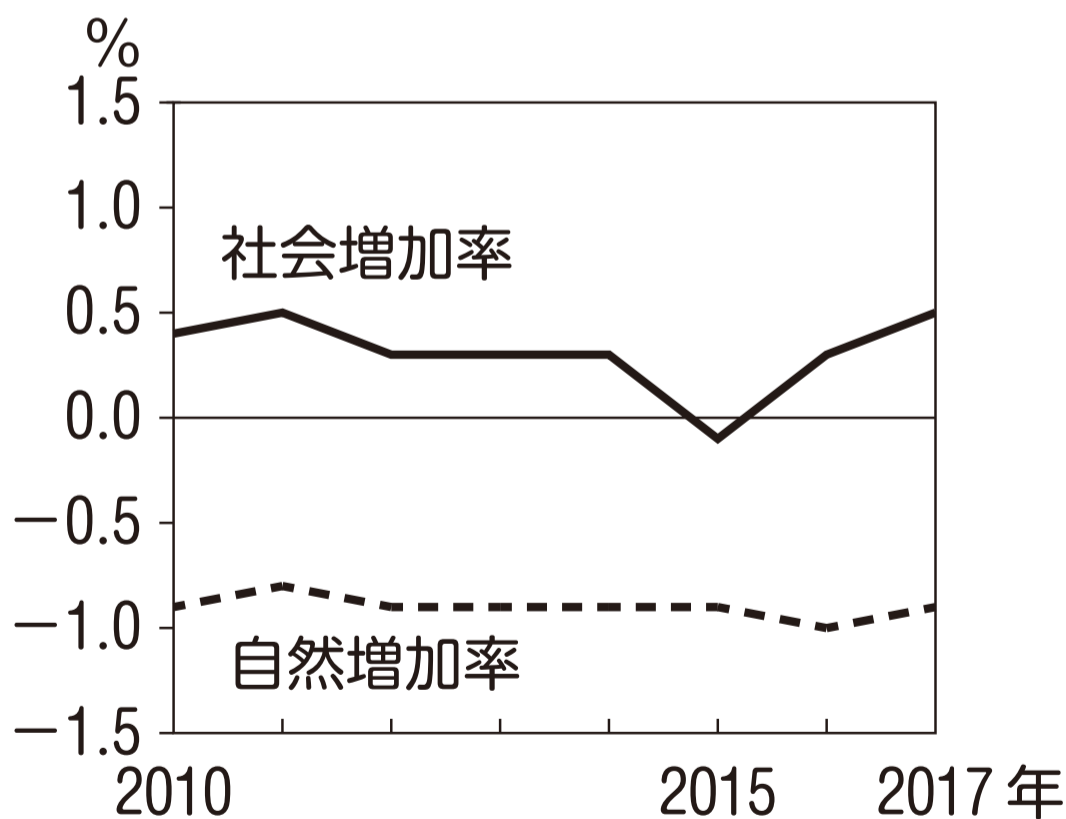
2017 年の図中の農地については、2016 年時点のデータを用いた。国土数値情報などにより作成。

図 6

- ① 1991年時点での店舗面積 $10,000 \text{ m}^2$ 以上の大型小売店数は、甲府駅から半径 1 km の範囲内よりも範囲外の方が
多い。
- ② 1991年時点と2017年時点を比べると、2017年の方が甲府駅から半径 1 km の範囲内において店舗面積 $10,000 \text{ m}^2$
未満の大型小売店数が多い。
- ③ 2017年時点での甲府バイパスより南側にある店舗面積 $10,000 \text{ m}^2$ 以上の大型小売店は、1991年時点に農地で
あった場所に立地している。
- ④ 2017年時点での甲府バイパスより南側にある店舗面積 $10,000 \text{ m}^2$ 以上の大型小売店は、それぞれの最寄りの駅から
500 m 以内に立地している。

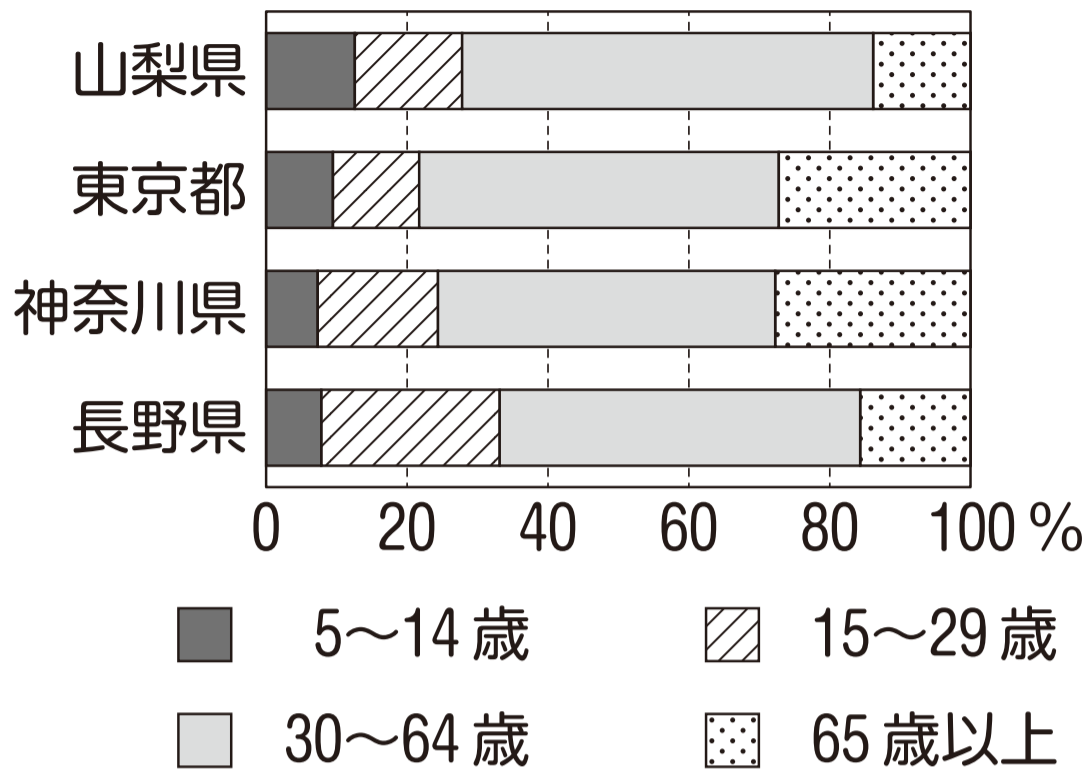
問 6 59 ページの図 1 中の^{ほくと}北杜市が、近年、積極的に移住促進の取組みをすすめていることを知ったスミさんは、移住の実態を調べてみた。次の図 7 は、北杜市における人口の自然増加率と社会増加率の推移を示したものであり、図 8 は、北杜市への転入者数*が上位の 4 都県からの転入者の年齢別割合を示したものである。図 7 と図 8 から読み取れることからについて説明した文として下線部が**適当でないもの**を、後の①～④のうちから一つ選べ。 35

*2015 年の北杜市の居住者のうち、2010 年に北杜市以外に居住していた者の数。



総務省の資料などにより作成。

図 7



統計年次は 2015 年。
 国勢調査により作成。

図 8

- ① 自然増加率と社会増加率との関係からみて、2010 年から 2017 年にかけて北杜市の総人口は増加している。
- ② 北杜市では、2015 年を除いて転入者の数が転出者の数を上回っている。
- ③ 東京都と神奈川県からは、2015 年時点における転入者に占める高齢者の割合が他の 2 県に比べて高い。
- ④ 山梨県内からは、2015 年時点における中学生以下の子どもと同居する世帯単位の転入の割合が他都県より高いことがうかがえる。